

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3870104241		
法人名	株式会社クロス・サービス		
事業所名	グループホームむく		
所在地	愛媛県松山市西野町甲434-1 (電話) 089-960-8330		
管理者	上村 麻左美		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年8月4日

【情報提供票より】 (平成20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成16年8月4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	10人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.0人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		
(3)利用者の概要 (平成20年6月1日現在)			
利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 58 歳	最高 95 歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>職員は、読経やお茶湯、旧友とお出かけ等、利用者一人ひとりのこれまでの習慣を継続できるように支援されている。調査訪問時、庭先の椅子に腰掛け、コーヒータムを楽しまれている方がおられた。</p> <p>利用者個々との会話の中で思いを引き出し、汲み取れるよう努めておられる。ご本人の誕生日には、魚釣りやお芝居観賞、思い出の場所への訪問等、一人ひとりの希望に添って支援されている。</p> <p>浴室や湯の温度調節に留意し、入浴を支援されており、入浴剤等、香りにも気を配っておられる。又、足湯の際には、足裏マッサージができるようにピー玉を敷く等、工夫されている。月に1回は、利用者と職員で温泉に出かけ、楽しまれている。入浴を拒まれる方の立場に立って、職員自らがシャワーや熱気を体験し、よりよい入浴支援のあり方に取り組まれた。</p>
--

【質向上への取組状況】

<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・前回の評価結果を受けて、改善計画を作成し、介護計画の内容の充実や地域に向けての広報の発行等に取り組まれた。</p>
<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・すべての職員で自己評価に取り組み、ユニットごとに主任がまとめ、管理者が作成された。管理者は「地域との関係性や利用者の思いに沿えるような支援のあり方等、現状に甘んじることなく常に進化していきたい」と話しておられた。</p>
<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b></p> <p>・運営推進会議時、事業所の近況や行事報告等をされ、利用者ご本人、ご家族、民生委員の方等、出席者に感想をいただいている。地域の方が、近隣のとおきのお出かけスポットを教えて下さり、利用者と職員で訪れたこともある。</p>
<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</b></p> <p>・事業所では、「ご家族と助け合える関係づくり」を目指しておられ、ご家族の来訪時や年2回の家族会等の際に、意見や要望を出してもらえよう働きかけておられる。</p>
<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>・事業所では、地域との「昔ながらのお付き合い」を大切にされており、近所の方からいただいたお野菜やお花のお礼に、手作りのお菓子等をお返しされている。又、地域の一人暮らしの高齢者の方を訪ね、季節の行事ごとにお寿司等をお配りしている。地域の方に事業所のことをさらに知っていただくために、広報紙「むく通信」を発行されたこともあり、近所の方が「むくさん」と親しみをこめて声をかけてくださる機会も多くなってきている。</p>

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームむく

(ユニット名)

1階

記入者(管理者)

氏名

上村 麻左美

評価完了日

平成20年6月7日

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ユニットごとに職員みんなで理念をつくっている。		作りっぱなしになっている恐れもあり、理念について職員全員で見直しも含め、話し合える機会を持つ必要がある。また、定期的に地域密着サービスとはどういうものなのかを話し合える機会を持ちたい。
			(外部評価) 事業所の理念やユニットの理念に沿って、地域の一員として「地域の方々と笑顔こぼれる助け合える関係づくり」を実現できるよう取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 掲示はしている。全職員がきちんと理解し理念の共有ができていないとは思えない。		まずはもう一度理念を元に日々取り組んでいるのかどうか、全職員と話し合い、理念の意味を確認しあう機会を持つ。
			(外部評価) 職員個々に理念の実践に向けての「マイプラン」を作成する等、理念を共有しながらケアを行えるよう取り組んでおられる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 以前に説明、発表はしているが、いまだに理解していただけていないのが疑問である。理念の浸透のためのホームからの働きかけが不十分だった。		計画を立て、定期的に理念の発信を行いたい。また地域に向けての広報も定期的に作成していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の時などのあいさつや、立ち話をする事で隣近所の方と顔なじみになっている。気軽に立ち寄り野菜をいただいたり、ホームからはお菓子を持って行ったりと日常的な付き合いができています。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の文化祭や運動会、秋祭りや公民館活動などのほか、ご利用者の参加できる行事には参加している。また地域の子供会と合同でホームでクリスマス会を行ったりと交流を深めている。		もっと地域との交流を深め、参加型の行事にとどまらず、地域の方と共にできる活動(俳句、詩吟など)や楽しみごとを考えていきたい。
			(外部評価) 事業所では、地域との「昔ながらのお付き合い」を大切にされており、近所の方からいただいたお野菜やお花のお礼に、手作りのお菓子等をお返しされている。又、地域の一人暮らしの高齢者の方を訪ね、季節の行事ごとにお寿司等をお配りしている。地域の方に事業所のことをさらに知っていただくために、広報紙「むく通信」を発行されたこともあり、近所の方が「むくさん」と親しみをこめて声をかけてくださる機会も多くなってきている。		地域の方が、公民館で行われている俳句会への橋渡しをして下さり、俳句のお好きな利用者は創作に励んでおられる。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 独居の方の自宅へお菓子を持って訪問したりはしているが、特に取り組んでおらず、例えば運営推進会議等で提案や発信が十分ではなかった。		ホームでも何ができるのかももう一度話し合う必要があり、地域の方からはニーズを引き出しそれについて話を持ちたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は全職員で取り組んでいる。毎年のものであるが、前回の評価を元に具体的な改善策を作り、改善について取り組んでいないことが多かった。		管理者、リーダーが評価に対しての具体的な改善計画書を作成し、それらを全職員へ伝えきる必要がある。もちろん明確な目標設定、期間を設けて行ってきたい。
			(外部評価) すべての職員で自己評価に取り組み、ユニットごとに主任がまとめ、管理者が作成された。管理者は「地域との関係性や利用者の思いに沿えるような支援のあり方等、現状に甘んじることなく常に進化していきたい」と話しておられた。前回の評価結果を受けて、改善計画を作成し、介護計画の内容の充実や地域に向けての広報の発行等に取り組まれた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>その時その時のホームの現状や取り組み状況は報告している。またホームから質問や提案を行い、日常生活やサービス向上につなげている。</p>		<p>決まった家族やご利用者の参加にとどまっている現状があるので、他の家族やご利用者またはもっとたくさんの方々が参加できるよう働きかけていきたい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、事業所の近況や行事報告等をされ、利用者ご本人、ご家族、民生委員の方等、出席者に感想をいただいている。地域の方が、近隣のとっておきのお出かけスポットを教えて下さり、利用者と職員で訪れたこともある。</p>		<p>事業所では、運営推進会議のさらなる充実を図るために、会議のテーマを出席者の持ち回りとし、それぞれの立場から出していただいた意見を、質の向上に活かして行きたいと考えておられる。次回の会議では、地域包括支援センターの方がテーマを提案される予定となっていた。</p>
9	6	<p>市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域包括支援センターの主催する研修や勉強会に参加している。まだまだ機会は少ないのかもしれない。</p>		<p>管理者、リーダーは参加するだけでなく、もっとホームにとってプラスになるよう積極的に参加していきたい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>包括支援センターの研修会に参加されている。法人の福祉事業部部長は、市が主催する認知症ケア研修の講師として協力されている。</p>		
10		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>勉強会を開き学ぶ機会を持っているが、定期的に行っていないため、全職員が活用できない。</p>		<p>まずは全職員に対し理解の確認を行いたい。忙しい中でもできるだけ時間を作り、学ぶ機会を作っていきたい。</p>
11		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>定期的に学ぶ機会を持てるようにしたい。また日々行っている援助が利用者の方にとって間違っていないかなど、職員同士がチェックし気付けるような仕組みを引き続き作っていきたい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間を取って説明している。契約の時には事業所のケアに対する考え方や取組みを説明している。解約の場合は、家族や利用者の話をよく聞き、誠実に対応している。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) まずは関係作りを行い、不満や意見の言える環境づくりに努めている。そしてミーティング等を活用し、日々のケア、活動に反映している。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時には報告、連絡をしていくよう徹底している。そして家族会においても報告をおこなっている。また、面会の少ない家族の方へは手紙を送付したり、FAXや電話連絡、Eメールなど家族の都合にあわせた連絡方法を取っている。		
			(外部評価) 季節ごとに「むくだより」をご家族に送付し、事業所の取組みや利用者の日々の様子、利用者ご本人がしたためられた文章や俳句等も紹介されている。遠方のご家族には、FAX等も利用し、近況報告をされる。		事業所内の共用空間に職員の写真と氏名を掲示されているが、管理者は、今後「むくだより」でも職員の紹介をしていきたいと話しておられた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会においては意見交換、アンケートなどを行い言える環境づくりに努めている。またミーティングを行い早急に反映するよう努めている。		実際にはなかなか本音が聞きだせていないのが現状なので、家族との日々の何気ない会話からの聞き出しであったりと、より工夫していきたい。
			(外部評価) 事業所では、「ご家族と助け合える関係づくり」を目指しておられ、ご家族の来訪時や年2回の家族会等の際に、意見や要望を出してもらえるよう働きかけられる。		管理者は、今後さらに、ご家族の思いや希望に耳を傾け、ご家族と事業所が支え合えるような関係性を深めていきたいと考えておられた。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや年に数回の個々の面談を通じ聞く機会を持っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 急を要する場合の通院や要望がある場合の通院など、必要に応じ話し合って勤務の調整をしており、全職員協力している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 普段から1階2階関係なく外出や買い物など交流する機会を作っており、職員も利用者もなじみの関係作りに努めている。また、離職者がいた場合はその後の利用者や家族のフォローへは気にかけるようにしている。		まずは長く続けてもらうためにも、日頃からの関係作りを大切にし、引き続き誰もが働きやすい職場環境を作る努力をしていきたい。
			(外部評価) 管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にされており、それぞれが抱える悩みを話し合ったり、共有できるよう努めておられる。		管理者は、今後もさらに、職員個々の得意なことを活かせるような、よりよい職場環境作りを目指していきたいと考えておられた。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内、グループホーム連絡協議会などの外部の研修、勉強会、相互研修事業など、たくさんの研修、交流の機会はあるが、シフトの調整上、業務を優先してしまうことが多く、全職員が対応の研修を受けることができなかった。		引き続き、あらかじめ計画を立てできる限り研修や勉強会には参加したり、他グループホームへの研修や交流をすすめていきたい。また、ホーム内でもトレーニングしたり、助言やアドバイスが的確に行えるようにしていくことが大切である。
			(外部評価) 事業所では、法人内外の職員研修の受講を推進されている。月1回の法人内のケア向上委員会では、各事業所ユニットごとに、取り組みや問題点を発表し、意見交換等がされている。又、事業所でのミーティング時、外部研修の報告をされたり、感染症や栄養摂取、介護計画の立て方等について勉強会を行い、全職員で知識や情報を共有されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	(自己評価)		
			<p>運営者はグループホーム連絡協議会の事務局長をしており、幅広く活動を行っている。また、職員が相互評価に参加したり、運営推進会議に同じ地区のグループホームの方を招いたり、ネットワーク作りに努めている。</p>		引き続き、市や地域包括支援センターが呼びかける地域同業者との交流の場には、職員はできる限り積極的に参加していく。
			(外部評価)		
			<p>法人内の系列の事業所が合同で開催される運動会等の行事の際に、職員は利用者とともに交流されている。地域の他事業所との研修会や相互評価等にも積極的に参加されている。</p>		
21		<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	(自己評価)		
			<p>面談を行い話をしたり、年に数回親睦会を開いている。個々の職員の性格を踏まえ対応はしているが、ストレスを軽減させたり、悩みを抱えている職員への対応がなかなかうまくできていない。</p>		引き続き、必要に応じたフォローが必要である。勤務の中でも研修に参加することで、気分転換や悩みの解決につながることもあるので、そのような機会を多く持てるようにしたい。
22		<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	(自己評価)		
			<p>定期的に面談を行い、ここの気持ちを理解し、前向きに働けるように努めている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
23		<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	(自己評価)		
			<p>見学の際には、ご本人が落ち着いて気持ちが話せるような雰囲気作りに努め、よく話を聞き、理解するように努めている。</p>		その時だけでは遠慮もありきちんと聞き出せているかは疑問なので、まずは関係づくりに留意し、じっくりと時間をかけながら理解を深めていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族の話を聞くことで困っていることや求めていることを知り、こちらの力になりたいと思っている気持ちを伝え、関係を築けるよう努めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の希望を聞き、グループホームに限定せず様々なサービスの選択肢を一緒に考えるように努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前にはご本人にはなるべく見学に来ていただき、ご利用者とお話ししたり、お部屋を見てもらったり、気持ちの不安が軽減できるよう努めている。また、入居の日はできる限りご家族も共に過ごしてもらえよう、いつでも泊まれるようフリールームを開放している。		
			(外部評価) 入居前にご本人を訪ねるようにされているが、難しい方には、ご家族にご自宅の様子分かるような写真を送っていただき、居室の環境作りに活かされた。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、家事や調理を一緒に行い手伝ってもらっただけではなく、知識や経験を活かした方法を教えてもらっている。また、野菜作りや花の庭造りにおいても、互いに助け合い喜びを分かち合える雰囲気作りをしている。		日々の会話などで、もっと昭和や戦時中の話に興味を持ったり職員に知識があると、話が膨らみ一緒に楽しめる時間が増えるので、職員にはそういった意識付けをしていきたい。
			(外部評価) 職員は、利用者がいつも「お帰り」と声をかけてくれることで心安らぎ、又、利用者が望郷の思いや病気への不安にくれているときは、ともに涙されることもある。料理方法等、利用者へ生活の知恵を伝授していただくことも多い。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族も一緒に参加できる行事を計画し、共に過ごせている。また、不安、不満などの聞き取り、早急に状態の報告をしたり、日々の何気ない会話も大切に、関係作りに努めている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事にも参加してもらったり、面会時には共用スペースや特に居室などで一緒にゆったり過ごせる時間が持てるような環境作りができています。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時にはゆっくり話のできる雰囲気作りをしたり、なじみの場所（美容院や飲食店など）や、時には自宅へ一緒に帰ったりしている。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性について、申し送りやミーティングを活用し、日々配慮できるよう努めている。また、何をするにしても全員が一緒とは考えず、個々、個別性を重んじつつ利用者同士の関わり合い、支え合いを大切にしている。		性格的なこともあるのか孤立気味になってしまう方もおり、一人で過ごす場面があっても孤立した気持ちを持ってしまわないよう引き続き配慮し、アプローチの方法を工夫していくことが必要である。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後も仲の良かった利用者の方と訪問できる機会を持ち、付き合いを大切にしている。また、日々の生活の中でも写真を見ながら思い出話をしたりし、懐かしんでいる。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			日々の関わりの中で、希望、要望、意向の把握に努めている。そしてそれらを日々の申し送りで職員同士が情報の共有をし、ケアプランにはセンター方式を活用し、ケアに反映できるようにしている。		今に満足せず、全職員が常に利用者一人ひとりの本人の思いを感じ取り、本人の立場に立って考えられるよう、また、ご家族からも意見や要望を聞き出せるようにしていきたい。
			(外部評価)		
			利用者個々との会話の中で思いを引き出し、汲み取れるよう努めておられる。ご本人の誕生日には、魚釣りやお芝居観賞、思い出の場所への訪問等、一人ひとりの希望に添って支援されている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			情報シートを作成しご本人やご家族から聞き取ったことなど記録に残すようにしている。そして全職員が必ず目を通し、把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			日々の記録(個人記録やバイタルチェック表、申し送りノート)を見て振り返ったり、ケアプラン更新時にはセンター方式を活用して把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ご本人やご家族から要望や意見を聞きながら介護計画を作成している。また、ミーティング時やカンファレンスを行った時に、全職員で意見を出し合い見直し機会を持っている。		家族の思いや意見の聞き取りがまだまだ不十分であり、まずはご家族との関係作りに重点を置き、遠慮なくご家族からホームに対し意見や要望を言っていたできるようにしていきたい。
			(外部評価)		
			ご本人の希望やご家族の思い、職員の気付き等を探り入れ、介護計画を作成しておられる。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			基本的には3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、体調や状態の変化のあった時、退院時などには随時新たに作成している。		
			(外部評価)		
			定期的な見直しと、状態変化に応じた随時の見直しを行ってられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個別記録やバイタルチェック表、ウィークリーアクションプランを作成し、細かく実践したことについて検証するようにしており、日々の申し送りで情報の共有、見直しをし介護計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			買い物や通院などの要望はきちんと聞き、職員が同行している。また、身体に異常があった時などは訪問看護ステーションに連絡を取ったり、必要な介護用品、福祉用具の注文などにも随時対応している。		
			(外部評価)		
			美容院の送り迎え等、ご本人やご家族の事情等を踏まえ、柔軟に対応できるよう支援されている。遠来のご家族が事業所内に設けられたフリールームに宿泊されることもある。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年2回の避難訓練には、消防署から来てもらい、緊急時の処置の方法など指導してもらっている。		例えば地域のボランティアなど、いろいろな地域資源の協力を得ることができるよう働きかけを行っていききたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域包括支援センター主催の連絡会には必ず出席するようにしており、情報交換も兼ねた交流の場で他の関係事業者との関係作りを進めている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 研修会にはなるべく参加したり、地域運営推進会議には参加してもらって意見交換をしている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時にかかりつけ医の希望を聞くようにしている。また、定期往診時には状態を細かく報告し、異変時も主治医と家族双方の意見を聞き対応している。定期受診に家族が同行する場合は最近の状態を家族に説明したり、主治医に宛てて手紙を書くようにしている。また、状態に応じて受診にも同行するなど柔軟に対応している。 (外部評価) かかりつけ医を受診できるよう、ご家族の協力を得ながら細やかに支援されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医への定期的な状態報告の際には、身体のことだけでなく、精神的な変化も含め細かく伝えるようにしている。また、必要に応じて専門の医療機関への受診、相談も行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションから1Wに1回は健康チェックに来てもらい、相談や助言をしてもらっている。また、利用者の異変に対して24時間いつでも対応してもらう体制ができています。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) こまめに入院先へ出向き、様子を聞くなどしている。また、退院前には家族も含め、カンファレンスを持っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居の際に、家族の考えを聞くようにしている。また、そうなった時には、かかりつけ医や訪問看護ステーション、家族等を交えて話し合う機会をもっている。		
			(外部評価) 入居時に、ご本人やご家族に重度化や終末期の事業所の対応について説明し、その後も体調変化等が見られた場合にはその都度、医師も交えて話し合われている。これまでもお二人の方が事業所で人生の終焉を迎えられた。職員は、ご家族がそばにいて、静かに最期の時間を過ごしていただけるよう心がけられた。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の変化や様子等、ファックスや電話を利用してこまめに相談、連絡を取っている。また、必要な知識を身につけるため、看護師に相談したり、資料を踏まえ勉強している。適時、医師や看護師、家族と連携を図り、今後について本人や家族の思いを聞き取り確認するようにしている。		様態の変化を見逃さず、いつでもすぐ適切な対応が速やかにできるよう全職員が意識を常に持てるようにする。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今までの生活の様子や過ごし方など、細かく申し送り、カンファレンスを行い、リスクの軽減を図っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価)</p> <p>親しみやすく、丁寧な言葉遣いを心がけている。記録物などの個人情報は別室に管理しており、十分な注意を払っている。また、ファックスなどの記入の仕方も、フルネームで書かないようにしたりし注意している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、利用者に「気持ちの良い笑顔で接する」ことを大切にされており、調査訪問時、利用者が柔和な表情で過ごしておられる様子がうかがえた。</p>		
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>選択のできる声のかけ方、自己決定のできる声かけなどには十分配慮している。また、自己決定の困難な方に対しては、表情や身振り素振りなどから気持ちや思いを汲み取り、納得しながら暮らすことのできるよう支援している。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>今までの生活スタイルを大切にしながら、本人の希望を聞き取り支援している。また、集団生活の中でも個性を重視し、できる限り一人ひとり個々に応じ自由に気ままに過ごすことができるよう支援しているが、状況によっては職員の都合や勝手な思い、ペースになってしまっていることでもあるのではないかと問いかけ、振り返るようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、読経やお茶湯、旧友とお出かけ等、利用者一人ひとりのこれまでの習慣を継続できるよう支援されている。調査訪問時、庭先の椅子に腰掛け、コーヒータイムを楽しまれている方がうかがえた。</p>		<p>気づかぬ内に職員の都合や勝手な思い、ペースになってしまっているのではないかと常に問いかけ、振り返るようにしていきたい。</p>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 馴染みの美容室へ行ったり、行けない方に対しては出張してもらっている。また、外出の時などは、お気に入りの服装や化粧などができるよう配慮し、外出が楽しくなるような支援をしている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物、調理、盛り付け、配膳、下膳、食器粗い、食器片付けまでの行程で利用者と共に行い、味見、味付けまでしてもらったこともある。また、庭で取れた野菜や近所で採った山菜など、旬の食材をできるだけ使うよう意識している。 (外部評価) 利用者と職員がおいしい食事を一緒に作り、ともに味わい、和やかに食卓を囲んでおられた。時には、事業所の菜園で利用者が丹精された季節の野菜や果物がテーブルに上ることもあり、昼食時、実りの時を迎えつつあるスイカの話で会話が弾んでいた。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 例えば朝食はパンとご飯のどちらかが選べるようにしている。飲み物も好みに合わせてできる限り選んでもらっている。また特別にこだわりのある物や嗜好品に関しては、一緒に買いに行き、その都度状況に応じ楽しめるよう支援している。		
56		気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) こまめに排泄チェックや個人別の記録をつけるようにしており、排泄パターンや状態を知るようにし、申し送りやカンファレンスを活用し、状態に応じた気持ちよい排泄を支援している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) できるだけ希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。しかしながら、職員の人員配置の関係上、安全面を考慮した場合に急な入浴希望があると、ご利用者にお願しい職員の都合に合わせてしまっている場合がある。		不快な思いをしないように日々のコミュニケーションに努め、ご利用者の希望や要望にあわせて気持ちよく入浴できるよう工夫していく。
			(外部評価) 浴室や湯の温度調節に留意し、入浴を支援されており、入浴剤等、香りにも気を配っておられる。又、足湯の際には、足裏マッサージができるようにピー玉を敷く等、工夫されている。月に1回は、利用者と職員で温泉に出かけ、楽しまれている。入浴を拒まれる方の立場に立って、職員自らがシャワーや熱気を体験し、よりよい入浴支援のあり方に取り組まれた。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じ居室に戻って休んだり、生活習慣を尊重し昼夜問わず共用スペースでもソファなどで休息できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本人の得意なこと、好きなことなど日々の生活、活動に取り入れ力を発揮できる場面を作っている。(裁縫、俳句作り、調理、散歩、外食、買い物、畑仕事、花の世話、犬の世話など)		職員の人員配置上の都合で、場面や機会が少なくなっている場合があるので、個性や個々のタイミングを尊重していけるよう職員に徹底していきたい。まだまだ隠された力があることを意識し、決めつけない関わりや工夫。そのためには、ケアプラン更新時のアセスメントの徹底。
			(外部評価) 事業所では、利用者ひとり一人の「意欲」を支援できるよう取り組まれており、料理、縫い物、野菜作り、俳句等、利用者それぞれに役割や張り合いが見出せるよう支援されている。調査訪問時、職員と一緒に利用者の方がお茶を接待して下さった。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理のできる人は自由に使えるよう支援している。声をかけたり、見守りの中でもなるべく自由に買物ができるような環境づくりに努めている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			会話の中でさりげなく聞き出したり、または前もって計画を立てていたり、一人ひとりに希望や要望の聞ける環境を作っており、自由に散歩やドライブ、外食や買い物に出かけられるよう支援している。言えない方や決められない方にはこちらから提案したりもしている。		
			(外部評価)		
			事業所の玄関には、利用者が庭の草取りや散歩にいつでも出かけられるよう、色とりどりの帽子が掛けられていた。調査訪問時には、車でスモモ狩りに出かけておられた。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			日々の会話から聞き取ったり、提案したりして行ける日を計画し出かけられる機会を作っている。		ご利用者が遠慮していることが多いので、もっと自由に希望が言えたり、一緒に相談しながら計画したりする機会をつくっていきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			年賀状や手紙を書いたり、宅配便があるとこちらから電話をかける声かけ促しをしたりと、遠慮して言えないのではと常に考えて支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			笑顔で挨拶することは心がけており、ゆっくり過ごせる居室の環境整備にも努めている。職員の家族への接し方についても、十分配慮し気持ちよく過ごしてもらえるように、タイミングなど邪魔にならない程度にコミュニケーションを図っている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)  日常のケアの中でも意識をしており、職員がお互いに確認し合い実践できている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価)  玄関は基本的には夜間に、必要最低限の防犯の為の施錠をしているのみである。このことについては全職員理解できている。  (外部評価)  玄関は施錠されておらず、利用者が自由に出入りして過ごせるようになっている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価)  日中は、職員間で声を掛け合って安全に留意し、見守りを行っている。また、夜間はそのご利用者の状態に合わせ、30分から1時間ごとの巡回をしている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価)  入居時には持ってきた物品の確認を行い、ナイフやハサミ、爪切りなどは、家族と相談し居室に置くようにしている。個々の状態を把握するようにし、状況に応じ一緒に扱うようにし危険を防ぐよう配慮している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価)  年に2回の防災訓練を3月と9月に行っており、夜間時の対応についても指摘を受けたり、適切な対応の仕方も全職員教わっている。服薬ミスを防ぐ為の徹底方法や緊急時マニュアルを作成し、新人職員には随時説明している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価)  防災訓練時には消防署から応急処置の講習をもらったり、町内での講習にも参加している。		全員が対応できるように参加した職員から事業所内で勉強会を行い、誰もが対応できるようにしていく。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価)  運営推進会議には声をかけたり、日頃から地域の方との顔なじみの関係が保てるよう働きかけている。  (外部評価)  年に2回、火災を想定した避難訓練を実施されている。地域の防災訓練に、職員も参加された。職員は、日頃からガスの消し忘れや、喫煙される利用者の火の始末等に気を付けておられる。		地域の方々には具体的に防災協力協定などの話も進めていく。  管理者は、今後、運営会議開催時に避難訓練を実施し、地域の方や利用者のご家族等にも参加いただけるよう、働きかけたいと考えておられた。さらに今後も、いざという時に、すべての利用者が安全に避難できるよう、地震等いろいろな災害や場面を想定した訓練も重ねていかれることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価)  入居時に、転倒のリスクがあるグループホームでの暮らしについては説明している。また、状態が変わるごとに、必要に応じて家族に主治医からも今後予測されることも含め、説明してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価)  日々バイタルチェック表をつけているが、それだけに頼ることなく、小さな変化も申し送りノートに記入し、職員同士では情報を共有している。その中で、リーダーが判断し医師や看護師に報告している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) 往診や受診後は必ず全職員が医療ノートを必ず目を通すよう徹底しており確認が出来るとサインするようにしている。また、処方箋ファイルもスタッフルームに保管し、いつでも見られるようにしている。そして、ミーティングやカンファレンスを活用しその都度薬に対する重要性、支援のあり方については話しを持っている。</p>		<p>職員の入れ替わりもあるので、特に新しく入った職員には時間をかけて説明し、理解していけるよう徹底していく。</p>
75		<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 薬に頼るだけでなく、栄養面や運動など多方面から工夫、改善し支援している。例えば、食物繊維の多い食材の利用や食事バランスに気をつけたり、生活の中で体を動かせるよう掃除や家事に参加できるよう支援している。</p>		
76		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) できるだけ食後は必ず声かけ促しをし、誘導を行い歯磨きを行っている。また、歯の状態の変化にも気をつけ必要時には歯科受診の支援を行っている。</p>		<p>自分で歯磨きしている方については口腔内の状態に気をつけ、しっかり磨けているのか都度確認するようにする。</p>
77	28	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) バイタルチェック表で一人ひとりの食事量や水分量を把握している。栄養摂取については週に2回カロリー計算をし、一人ひとりの状態に応じた食事への配慮をしている。また、状態の変化に応じて食べやすい盛り付けの工夫や器を変えてみたり、職員と話し合い様々な側面から一人ひとりに適した支援を行っている。</p> <p>(外部評価) デザートやおやつに、寒天を日常的に採り入れ、水分確保や整腸に努めておられる。食が進まない方には、栄養補助食品等でも補えるようにされている。事業所の庭に実った梅を使って、梅干しや梅ジュースを作っておられた。</p>		
78		<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>(自己評価) マニュアルを作成し、毎年の時期に合わせて対応している。看護師や医師に協力してもらっている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者、職員共々に調理前の手洗いの徹底をしている。夜間には調理器具やふきん類の消毒、冷蔵庫内の清潔保持に努めている。</p>		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>庭には、畑を作ったり花を植えたり、いつでも休めるようにイスやテーブルを置いている。玄関には季節の花を置いたり気持ちのいい玄関作りに努めている。また、天気の良い日には玄関の戸を開け、開放的で入りやすいような雰囲気作りに工夫している。</p>		<p>玄関は出入りが多く汚れが目立つので、職員誰もがすぐ気付きこまめに掃除できるようにしていきたい。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>季節の飾りや花を生けたりして、自然で殺風景にならないように工夫している。職員同士の声の掛け合いもご利用者の耳障りにならないよう日頃から注意を促している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前には、利用者がお世話している犬を飼っておられた。共用空間には、手作りのカレンダーや利用者の作品、観葉植物等が飾られ、季節の花が活けられていた。居間のベランダ越しに眺められる自然の風景に、四季の移ろいを感じることができる。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関先にイスを置いていたり、テーブルの席以外にもソファを設置し、気の合う人同士思い思いに過ごせるようにしている。また、フリールームを自由に気ままに過ごすことの出来る空間に工夫し、静かに過ごしたりできる少し違った居場所の工夫をしている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入居時には馴染みの物を持ってきてもらい、なるべく違和感の生じないよう、安心して過ごしてもらえるよう心がけている。また、本人の手作りの品や花、家族の写真を飾るように工夫している。		
			(外部評価)		
			居室には、テレビや仏壇、タンスやお化粧道具等が置かれ、CDの映画音楽に聴き入っておられる方もうかがえた。誕生日の寄せ書きや、職員が描いたご本人の似顔絵等も貼られていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			共用スペースには温度・湿度計を設置し温度調整には気をつけている。冬場は乾燥しないようフロアには加湿器を置いている。また、居室には一人ひとりの状態に合わせて、濡れタオルや加湿器を置いて温度と湿度の調整に配慮している。できるだけそれぞれの空間での換気の徹底も図っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			ベランダに出る少しの段差に気付きやすいようにマットを置いたり、浴槽内には、滑り止めのシートを貼っていたり、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		ご利用者の身体の状態が日々変化している中で、特に転倒の危険性が増えており、今以上の工夫を全職員で出し合っていきたい。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			日々の生活の中で変化にはすぐ気付けるようにし、アセスメントし一人ひとりのADLを理解し共有するようにしている。混乱や失敗を防ぐ為トイレはわかりやすく色の違う戸になっていたり、鏡には映る自分を見て混乱しないようカーテンをつけている。		引き続き、定期的に見直し、職員間の意識のズレや決め付けはしないよう心掛けていきたい。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			イスやテーブルを出して気軽にお茶を飲んだりできるスペースを作っている。また、畑や花壇では季節に応じた野菜や花をご利用の方と相談し、一緒に植えたり収穫したりできるよう楽しみを作っている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々のかかわりの中で、関係作りができてきている。遠慮されていることが多いので引き続き努力が必要。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	日常、一緒にテレビを見たり話しをしたり、食事、ティータイム時などゆっくり過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の状態によっては、スタッフが気持ちをおしはかり暮らしのリズムを作っている場合がある。あとはもっと個別性を大事にしていきたい。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その日その時で様子は違うものの、利用者ができることやしたいことを支援することで、「自分も役に立っている」「教えてあげる」と思ってくれている場面が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「どこか行きたいところはないか？」聞き取ったり、一人ひとりよく行っていた場所や好きな場所を把握し、希望に添えられるよう努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医や看護師にすぐ連絡し、対応できるようにしている。しかしながら、利用者は不安を持っているのではないかなと思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の自己主張も見られ、楽しそうな表情も見られている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族会や面会の際に話しを聞くようにはしているが、面会が少なく機会がなかなかもてない家族もいる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 4 ほとんどない	野菜を持ってきてくれたり、時には折り紙などを教えに来てくれている。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが広がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えてい る (自己 ② ② ③ ④ 評価) 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩中など声をかけてくれることが多くなった。野菜の差し入れをしてもらったり、お礼におやつを持って行ったりと交流を深めている。
98	職員は、生き活きと働けている (自己 ④ 評価) 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「何かをしなくては・・・」とおもいはあるものの、日々の生活に押し流されている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う (自己 ③ 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の状態の変化がある中で、さまざまな支援の内容が増えてくるのは当たり前なので「満足」ということでは先がないのではと思っている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う (自己 ③ 評価) 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	「よくしてもらっていますから」と言って下さるご家族が多く、またその分私たちのケアは限りなく追及していかなければならないと思っている。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

まずはこの環境を生かした取り組みとして、ちょっと外にでるだけで味わうことのできる開放感、自然の生きるエネルギーを感じられること、四季折々で採れる山菜や畑でとれた野菜の成長や収穫の喜び、散歩の途中で出会う人々の笑顔、野花や桜、若葉、深緑、紅葉をみて自然の美しさを感じることができ  
 る・・・できるだけ多くの「感じること」ができるようむくの中で過ごしっぱなしにならないよう散歩からお出かけまで毎日のように楽しめる工夫をしています。また、地域密着型サービスとして介護理念にもあるように、地域の方々やご家族との助け合える関係づくりに努めています。特にここ「むく」は地域性もあり「昔ながらの日ごろのお付き合い」を大切に考えています。それは、ご近所の方から頂いた旬の野菜や花のお礼も込めて季節の行事ごとには皆で作ったお菓子やお寿司などをお配りさせてもらったりしています。散歩で出会う方々とも笑顔でのあいさつから始まり、世間話をする中で馴染みの関係づくりに努めています。集団としての生活が基盤ではある中で、さらに個別性にも配慮し、毎日どこかに出かけた方、みんなと一緒に安心な方、静かなのんびりした空間が好きな方、ボーっとするのが苦手な方・・・18人様々な過ごし方ができるよう何をその方が求めているか、望まれているかという声に出せない方への気持ちにもなり考えるようにしています。同じグループ内で発足しているケア向上委員会では、各ユニットからご利用者の生活の質、スタッフのケアの在り方など様々な具体的テーマを取り上げ取り組んでいます。むくでは今まで足浴や身体や頭を使う体操を始め、あるご利用者をモデルに思いに近づけるケアの追及などに取り組んでいます。食事についても力を入れており、カロリーや塩分をはじめ、その方がおいしく食べられるような盛り付けや声掛けに工夫したり、寒天を日常的に取り入れ水分のすすまない方への取り組みなどしています。これからも笑いあり、涙あり、時には白熱しながらの日々の暮らしの中で、自分たちのしているケアに満足せず、常にご利用者の思いを中心に考えることができるグループホームにしていきたいと思っています。ぜひ、一度遊びにいらして下さい。